



# 出会い

第五十八号 平成二十七年九月発行

サラ・シャンティ  
神戸市灘区八幡町  
3-6-19 クレアル六甲 2F  
T/F: 078-802-5120

平均寿命120才の時代

清水 正博

今年も姫路書写山での31回目の古武道演武会があり参加しました。千年以上の歴史がある重要文化財の「食堂」で着替えをし、「常行堂」の中で演武するのは大変光栄なこと。古武道連盟会長と圓教寺住職はともに90才を超える長老で戦友なのです。信長が比叡山を焼き討ちした後には秀吉が来た時、僧侶たちは逃げ出したそうですが、黒田官兵衛がいたおかげで焼き討ちされず守られたのです。山頂には、今もササノオを祀った白山権現があり、ササガシヨシヤになったそうです。そこに性空上人が来て圓教寺を開き、花山法皇、観音信仰、六甲比女大善神社、瀬織津姫に繋がります。

神道夢想流杖道を始めて40年、お陰で千年の歴史のある建物で演武ができる。まさに日本に生まれ育ったおかげ。一体日本人とは何なのか、と自分のルーツを求めようになったのは、寒い真冬の愛宕山山頂の神社での奉納から、白山、大峰、伊勢、吉野、西宮戎、姫路神社、播

磨国総社などそれぞれ云われのある祭神の前で奉納演武をしてきましたので、神々との縁が深まったからでしょうか。120才まで生きるには、精神的支柱にする縄文カンナガラの道を求めよとのご宣託なのかもしれません。

それと同じことを感じ取ってか、好奇心が旺盛で、勉強好きで元気な女性がサラ・シャンティに多く来られるようになりました。男性は今のところ、忙しすぎてユトリがないのか、自分の（趣味）世界に籠って、異次元のお話への関心が薄いようです。PCやスマホなど進化した異次元の道具について行けなくて、疎外感が増し、取り残され、身体能力も衰えてくる。生きる意欲を高めるのは女性の方が得意なのでしょう。出産から定量の家事を日常当り前のこととしてこなす習慣が脳と体をバランス良く刺激して、意識を高めるのでしょう。

新人類の代表、ホリエモンは8月23日にデスマークで開催されたアイアンマン鉄人レース（S4k、B181k、R4215k）に挑戦しました。太り過ぎの身体を刑務所でトレーニングをして鍛え30キロも痩せ遅しくなった。模範囚として刑期を早く終えて、どんな事もすべてを肥やしにするプラス思考の生き方をしている。出所後はどうなるかと注目していたら、トライアスロン大会に出場し始めたのでびっくり。人間は動物ですから動いてナンボのもの、働きながら身体を使うのが一番合理的。走る、

漕ぐ、泳ぐは、いつでも出来て自然と触れあえ、気分転換になると分かってのことでしょう。

この3つの有酸素運動が多忙な日常生活での健康管理に大変有効だとアメリカで広がりました。短い距離のトライアスロン大会から出場するとよいでしょう。体力は会社勤めの往復を自転車通勤するだけで十分。肉体疲労など心配無用、経験を積めば解決します。小説家の村上春樹もトライアスロンを作家生活での健康管理に生かしている。東大外科医の矢作直樹さんは超多忙な救急医療の仕事をされながら名古屋、大阪まで気軽に超長距離をツーリングする人らしい、恐れ入ります。矢作さんは若い頃に山登りで鍛えた体力を日頃の通勤自転車だけで維持されている訳です。通勤時間を有効に生かしており、わざわざ時間を裂いてトレーニングなど無駄なのです。

私は定年になって通勤自転車もなくなり、トライアスロンは引退。現在は体力と精神力を高めるために週に2回杖道の稽古に励んでいます。「杖道」は戦前までは大変盛んでしたが、GHQの日本人骨抜き政策で禁止されました。だから日本人力の根底にあるカタカムナも封印されたのでしょうか。GHQは大和魂にとって不可欠なスゴイものだと分かっていたのです。でも最近、世界中でジャポニズムが復活したのは、武士道精神と古武道の奥にあるものが求められているからです。それが封印されてきた力

タカムナやホツマツタエであり、世に知れ渡れば、平均寿命を120歳にするほどのものなのです。だから武士道やも古武道の復活も不可欠で、日本人が知らないと思わずかしいのです。

1947年の戦後生まれの私は、1950年後半から欧米で流行った「Angry Young Men」の影響を受けました。「Angry Young Men」を「怒れる若者たち」と訳したのは、イカした頭が可笑しくなった連中の文化だと思わせたかったのでしょう。そんな欧米で生まれた音楽、映画、演劇の作品は、アメリカ的物質文明や政治を批判した真摯な内容が多かったと思います。そんな反社会的な行為をイカレタモノと思わせる意図が働いていたのだと思います。

戦後アメリカの黄金時代の豊かさを享受していた私たちに、冷や水をかけたのがチャップリンの映画でした。彼は下町に生きる庶民の哀愁や怒りを描き、ユーモアの陰に鋭い社会諷刺、機械文明や資本主義を批判した訳ですから、彼こそ若者たちを怒らせた元凶だったのです。赤狩りにあい、ハリウッドから追放されても、世界中で爆発的な人気を得ていたわけですから、私たちの世代は多大な影響を受けました。戦前からの彼の作品の影響で実存主義や東洋的宇宙観が広がり、西洋文明批判の反抗的な若者文化、ビートニックやヒッピー、フォークやロック、そしてビートルズが生まれたと思います。

そんなアメリカ文化一色の時代に、なぜか私はアメリカを避けてメキシコへ行き、北米を旅し、怒れる若者文化に触れて帰って来たのが1967年夏。日本は最高の国と自覚し、二度と海外に行きたいと思わなくなりました。歴史ある伝統文化の素晴らしさに目覚め、故郷神戸は世界最高の街だと思いました。その頃70年安保に向けて学生運動が始まっていて、その影響で他大学の学生たちと交流する機会がありました。新左翼系の学生たちの中でも、訳の分からない理論武装で社会主義用語を駆使して論争し、過激な行動を起こす学生たちが多くいて、それに僕は違和感を覚えました。

「反戦と平和」なんて云うと、お前は共産党かなんて云われたのです。言葉の使い方一つで、中核か、社会学か、なんて決めつけが流行りました。秀才と言われる学生ほど洗脳され易いのでしょうか、有名校の学生たちの程度を知り、呆れました。メキシコやアメリカを旅したお陰で、キューバ国情を理解できて、僕はカストロやゲバラの人柄や、歌と踊りのある人間愛に満ちた社会を目指すキューバが好きになり、支援活動に打ち込み、命がけで信念を持って生きる本物を見分ける力が身に付きました。

この頃は、戦後の工業化政策で環境汚染が大変深刻になっていました。子供の頃の美しい空や海、川を知っている私たちにとって、日本の環境汚染が深刻化する過程と、それを改善して

いく復活させる過程も見てきましたので、今の中国の深刻な状況が理解できます。学生運動のお陰で、環境問題について真剣に考えるようになり、環境意識が高まり、自然を大切する生き方を実践するために、車に乗らずに、どこでも自転車で行くようになり、自然に沿った生きる力を高めようとトライアスロン大会に挑戦し続け、周りの人が驚くほど変身しました。

その後、経済至上主義で物が溢れ、株や土地の高騰が続く、マスコミの扇動で「Japan as No.1」と奢り高ぶる様子は、日ノ丸行進で浮かれる戦前のようにでした。しかし、冷戦が終わり、流れが変わってバブルが崩壊し、労働環境は下降線を辿って、不況が常態化。しかし利権構造は温存され、若者たちは無力化し、政治に対しても無関心の状態が続きました。阪神大震災で災害大国である事に目覚めたものの、311の警告に対しても何も変わらず、もうこのまま行くだろうななんて諦めていたのですが、この夏、なんと若者たちがスマホを左手に持ち、アメリカの占領政策の実体を暴き、人間愛に溢れた声を、心の底からの声をあげたのです。パソコン世代がスマホを使いこなし、街頭演説する姿を見て、新しい生きる力を感じました。

「政治活動に参加したら、就職に不利だよ」なんて脅す人がいるようです。これは私自身の体験から言うところのウソです。社会を見る目を養い、世界観や歴史観が広まり、理想と現実の違いに

悩んでこそ、社会に出て現実的な対処力を養えます。行動してこそ役立つ体験を得られます。私は在学中の6年間、就職のことなど一切考えず、演劇や音楽にも熱中し、世界の問題に関心をもち、キューバにも行きましたが、就職には何の障害にもなりませんでした。

北朝鮮への赤軍派のハイジャックの直後で、キューバは今のイスラム諸国のような過激な国とされていた時期です。警察に尾行され、家に尋ねて来たり、外事課の刑事に誘われ飲みに行き、泥酔して家に帰った事もありました。卒業後3回転職しましたが、必ず転職先に警察官が尋ねて来ました。しかしこんな経験のお陰で、当り前と思つた事、やりたい事をやり通す勇気を養い、状況判断も的確になり、ストレス処理が上達して健康管理にもなりました。

歴史が変わる事件が起こったり、影響力のある人物が登場した時に、さあ次に何が起こり、どんな変化が生じるかを推測するのが楽しくなります。朴槿恵さんや習近平さんが登場し、独善的な歴史観に呆れ、封印されていた史実が語られるようになったり、その刺激的な言動のお陰で、怒った人達がワレもと意見を云うようになつた。韓流が死語になり、嫌韓になつた。政権党の期待せぬ方向に事態が発展し、若者が目覚め街頭にできるようになつたり、と歴史が変わる瞬間に立ち会え、長生きするほど面白くなって人生が楽しくなる筈です。

山本太郎氏はすでに日本が2004年4月からイラクで、非道な空爆を行った米兵の輸送のお手伝いを自衛隊にさせ、集団自衛の行使をしている実態を国会で暴露しました。米軍のイラク都市ファルージャの攻撃で死亡した90%は一般市民だった。『武器を持つ人間をみたら、殺せ。双眼鏡を持つ人も殺せ。携帯電話を持つ人は殺せ。何も持たず、敵対行為がなかったとしても、走っている人、逃げる人は、何か画策しているとみなし、殺せ』これ、一部のおかしな米兵がやったことじゃないですよ。米軍が組織としてやってきたことだそうだと、山本太郎氏は追求しました。

薩長の明治政府の背景にユダヤのお金がある、天皇制まで操作され、神仏習合の否定や、廃仏毀釈でお寺や仏像が壊され、天皇を神とする一神教的価値観から教育勅語が教えられ、天皇陛下万歳の世界になり、思想弾圧が始まり、反戦を口にしただけで、特高に引張られ、暴力を伴う拷問が加えられる暗黒の時代になりました。こうした誤つた道から日本を守ろうとする霊界からメッセージが多くの霊能者に降ろされたのもこの時代の不思議です。

日本にはそうした力によって救われてきた歴史があります。しかし明治以降の日本では、その多くを弾圧しました。その中に真実を読み取る必要があると思います。竹内文書(常識を覆す日本最古の史書)の武内巨磨も官憲に引つ

張られ拷問を受け、大切な古文書を失いました。大本教も二度の弾圧を受け、組織と施設に潰滅的な被害を受けました。もし出口王仁三郎の霊界からのメッセージを真摯に受けとめるユトリのある政権だったなら、真珠湾攻撃をするような愚かな事をしなかったのではないのでしょうか。

アメリカの戦争の後方支援の手伝いをしたり、原発のような環境破壊で神の国を汚すような政権が、神国日本などと云つたら世界の笑い物になるでしょう。江戸時代まで平和な国を築いてくれたご先祖様に申し訳ないです。神々を祀り、怨霊を沈める働きをするイワクラ、巨大古墳、神社仏閣が大切に守られてきた中に、日本の起源を知る事は私たちの魂のルーツを知ることになります。カンナガラという言葉を正しく使うようになれば、東北の被災者が示したような世界から称賛される教義經典など不要の国なのです。

こんな当たり前の思いを持った人たちの波動が共振して、繋がりは始めています。そんな平和な縄文人の思いで日本の歴史を見直そうと、カタカムナやホツマツタエの研究をしてきた人達が、活躍する時代が到来しました。戦後の檜崎皐月の活動から始まったカタカムナや静電三法、相似象学を読んだ方々が多くおられ、活動を続けて成果を挙げられています。カタカムナの人生観を持って長寿社会を楽しんで生きる方々との、面白い出会いの場になっていきそうです、ご期待下さい。

次の四つの文章は

- ① 大飯原発のおおい町出身、徳庄博美さんの麗しの国・若狭よりのお便り23
- ② ニュージールランドの友人エイプリル・グレンデイさんからは原発のない国ニュージールランドがなぜ非核国でいられるかという話
- ③ 原発立ち入り禁止区域の南相馬市の同慶寺・仲禅寺のご住職、田中徳雲さんからはネパール旅行と地震支援のレポート
- ④ 徳雲さんの奥様でいわき市在住の若いお母さん、慶子さんから震災後四年の実情を伝えるお便り。

## 麗しの国若狭より 23

### 若狭つながり市民ソーラーのこれから

徳庄 博美



今日はお盆で娘や孫たちも田舎に帰っています。家族でお墓を掃除し、花を手向け、感謝の思いを捧げました。私たちの村のお墓は小高い丘の上にあります。青い海が一望できる素晴らしい眺望の場所にあります。ここに父や母、祖父や祖母をはじめ我が家の祖先が眠っています。

今まではどちらかというとお墓の掃除を邪魔くさいと感じていたように思います。しかしこの夏は感覚が少し違いました。私たちに命を

繋いでくれた連綿とつながる祖先へ感謝の思いが広がっていききました。そして娘、孫とつながる滔々とした、命の流れを感じました。

村の墓には先の戦争で犠牲になった軍に徴用された方々の墓もあります。私の親戚も何人も犠牲になっていきます。父親の戦死で家計が苦しくなり、自分の希望する進路を曲げねばならなかった従兄弟もいます。父親を失った寂しさと苦しみを何度も聞きました。墓は村の歴史を、若狭と日本の歴史を刻んできました。しかし墓はその苦しみも飲み込んで静かにたたずんでいます。私たちの、このいのちの流れはどこへ向かうのでしょうか。

安倍政権は集団的自衛権行使を可能にする明らかに違憲の安保法案を衆院で強行採決しました。自衛隊員の命をアメリカ軍に捧げ、日本をアメリカの戦争に巻き込まれる危険性にとさらすものです。

また川内原発の再稼働を行い、2年あまりつづいた原発ゼロが終わりしました。規制委員長自らが新安全基準に合格しただけで安全を保障するものではないと言っているにもかかわらず。

川内原発周辺では桜島を始め火山活動が活発化し、住民の避難経路も確保されないうまです。又この夏の電力需要は中部電力で1日だけ90%を超えただけで、他では全く電力の供給不安は起こりませんでした。福島事故以降、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーと

省エネの普及によって声高に叫ばれてきた電力危機は回避されてきたのです。国際的な石油、天然ガスの値下がりでも火力発電の燃料費の高騰もなくなりました。

さらに原発大国のフランスでも半国営の原発設置事業者アレバ社が倒産の危機に陥っています。福島以後安全対策費が急増し、急速に経営危機に陥っているのです。東芝の会計不正処理問題も原発メーカー、ウエスチングハウス社の法外な価格で買い取りが原因となっています。本格的電力自由化を来年に控えて関西電力管内では、大口需要家が原発を抱える関電の料金が高すぎるとして新電力からの電力購入に切り替え五千件以上電力購入をキャンセルし始めていると報道されています。

川内原発の安全性を政府も規制委員会も県も九電も誰も責任を持って保障しないまま、しかも原発の必要性と経済的な合理性の論拠が全て崩れてしまっているにもかかわらずの再稼働です。引き返すことを知らない戦争中の軍部を見ている思いです。結果は自滅以外に無いと思います。

無理を通せば道理が引つ込み、そして最後には無理は必ずひっくり返るのが宇宙の理だと思えます。外交・安保政策でもエネルギー政策でも何であつたとしてもです。

私たちの連綿とつながるいのちの行き先は何なのでしょう。それは意識進化だと思えます。3次元を抜けだして目覚め、本来の私たち

である全てと一つの意識（空）に戻ることでと  
思います。

般若心経は「五蘊皆空、是故空中無色無受想  
行識、心無罣礙、無罣礙故、無有恐怖、遠離一  
切顛倒夢想、究竟涅槃。羯諦、羯諦、波羅羯諦、  
波羅僧羯諦、菩提薩婆訶」と私たちの意識進化  
の方向とその成就を称えています。

今日お盆用の臨濟宗の仏教典を読んで  
菩提和讃に次の一節があるのを知りました。  
「仏を知らんと欲すれば法界性を観ずべし。一  
切唯心造なりと。ひと（他己）をもわれ（自己）  
と知るならば、これぞ菩薩の浄土なり」この一  
節は今の私の世界観とぴたっと一致します。私  
たち一人一人が目の前を自分の内側として受  
け入れ、意識進化を遂げていくのです。

すると私たち人類の集合意識も進化を遂げ、  
絶対平和の地球に出会えるのです。すでに豊か  
で絶対安心の地球が存在しているのです。私の  
中に若狭もすでに原子力発電所と高圧送電線  
鉄塔が撤去され、人々が豊かな自然を生かした  
生活を営む未来ビジョンがあります。

「若狭つながり市民ソーラー」も皆様の協力  
で4月より、市民ソーラーとして発電、売電を  
開始しました。発電を行っていることを示す発  
電メーターを見て、市民発電所として発電を行っ  
ていることを実感し感動しました。皆様のご協  
力に感謝をします。

又5月30日・31日に「市民ソーラー完成  
を祝う会」を開いたところ関西方面を中心に2  
6名の方が参加していただき、盛況の内に交流  
を行うことが出来ました。交流のあと大飯原発  
の見学、小水力発電の実地学習、名所瓜割の滝  
の散策、滋賀県の有機農業、有機野菜レストラ  
ンでの食事を行い、未来につながる若狭圏を体  
験していただきました。参加していただいた皆  
様よりこれからもこのような企画をして欲し  
いという嬉しい声を沢山頂きました。これから  
も若狭と関西圏の皆様との交流を深めていき  
たいと思います。よろしくおねがいします。

### 非核国ニュージーランドより

#### エイプリル・クレンディ

今年、広島、長崎への原爆投下から70年  
目を迎えます。また今年、1985年1月、  
当時の首相デビッド・ロング氏が一隻の米国艦  
艇に対しニュージーランド港湾への入港を拒  
否し、その緊迫した数日の末に我が国の非核政  
策が生まれてからちょうど30年目になりま  
す。

ニュージーランドの核兵器に反対する姿勢  
は、第一次世界大戦当時の平和主義的伝統、ペ  
トナム戦争参戦反対運動、そして太平洋地域に  
おける植民地化問題に根ざすものであります。

1940年代後半から50年代にかけ、太平  
洋諸島の多くが植民地であったことから、支配  
側諸国は自国民を危険に晒すことなく核兵器  
の実験を行うことが出来ました。1960年代

には核に反対する運動が広まり、英国が195  
8年に、そして米国が1962年に核実験を取  
り止める一方で、フランスは1966年に南太  
平洋において核実験を開始しました。

ニュージーランドに  
おける核反対運動は、  
署名活動やデモ、集会  
などから始まりました  
が、本格化したのは、  
最初の抗議ヨットが  
フランスのムルロア  
環礁実験水域に向け  
て出発した1970  
年代初めでした。



これを受けてニュージーランド政府は19  
73年に、海軍所属のフリゲート艦1隻をこの  
実験水域に送りました。フランスは1974年  
にムルロア環礁で大気圏内での核実験を取り  
止めたが、1991年まで地下核実験を続  
けました。この間を通じて、ニュージーランド  
の抗議船舶が多数、ムルロア環礁付近の120  
海里軍事立入禁止水域へ進入を行うなどの活  
動を続けました。フランス海軍により乗り込ま  
れ船舶が損傷を受けることもあったほか、乗組  
員達は暴行を受けたり、捕らえられ送還され  
たりしました。ニュージーランド本国では、平和  
活動家達が街頭デモをするなど、太平洋非核地  
帯の確立に向けて活動をしていました。

その一方で、米国はニュージーランドに対し、  
原子力船舶（従って核武装艦艇）の入港を認め

るよう圧力を高めていました。その当時、原子力事故が起きた際の責任を負う姿勢が米国にはなかったため、1964年以来ニュージーランドでは、原子力艦艇の入港を禁じてきました。ところが、1975年にニュージーランド国民党が政権をとり、米国艦艇の入港再開を積極的に認め始めたのです。

これに対し、活動家達はニュージーランド湾への原子力艦艇入港を阻止するため平和船団を結成し民間海上封鎖を行いました。この平和船団は、1976年ウエリントン港において20隻の抗議船で米国艦艇トラクスタンと対峙し、最初の対立状態となりました。海員組合はストライキを決定し、丸一週間の艦艇の接岸を阻止しました。また、陸上では抗議デモ行進が多数行われ、首相がもう少しで非常事態宣言をするところでした。

1994年までの間さらに9隻の原子力艦艇がニュージーランドを訪れましたが、その度に、何万人もの人々がデモ行進を行ったほか、モーターボート、ヨット、小型ボート、さらにはカヤックやサーフボードに至るまでが平和船団の船隊を形成し大規模な水上抗議行動を行いました。

さらに陸上では活動家達が各地方行政に対し非核宣言を行うよう嘆願し、1986年までには、国民の72%が104の非核地帯に暮らしていました。この運動により、国中の多数の小規模平和活動グループに活動の焦点がもた

らされ、草の根の反核運動に対する支持の大きさを示しました。1984年の選挙の前にこの運動は頂点に達し、大きな政治的な影響をもたらしました。

1984年には原子力艦艇の入港を禁ずる法律制定を選挙公約にして、労働党が大差で政権を勝ち取りました。この後、米国が艦艇ブキヤナの寄港を申し出た際に、この決断の真価が問われることになりました。平和活動家達は政府に対し、手紙や署名により抗議を浴びせかけ、また、わずか48時間で一万五千人を超える参加者を集め、街頭抗議デモを行いました。その翌日に首相ロンギ氏が艦艇の入港拒否を発表しました。この仕返しに米国は、ニュージーランドを太平洋安全保障軍事同盟から除外し、安全保障及び情報活動に関する協力を大幅に縮小しました。

グリーンピースの旗艦、レインボー・ウオーリア号が破壊された妨害工作事件は、独立した非核政策国というニュージーランドの新たなアイデンティティをさらに強化しました。1985年



7月、オークランド港に停泊していたレインボー・ウオーリア号は、太平洋小型船団を率いてムルロア環礁へ向かう準備を行っていたところをフランスの諜報部員により爆破され、乗組員の一人であった写真家が命を落としました。このような国家的テロ活動に国中が衝撃を受

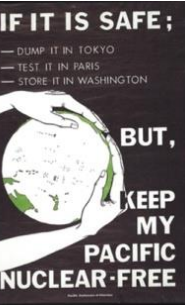
け、史上最大規模の警察捜査が行われました。この事件は今日、単発の出来事ではなく、核実験場や核廃棄場として40年間利用され続けた太平洋との関連で受け止められています。レインボー・ウオーリア号の破壊事件は、平和的抗議活動を抑圧するどころか、反核運動への支持をより高めたのです。

ニュージーランド政府は1985年12月、非核政策に関する法案を国会に提出し、1987年6月に同法案が可決されました。この法律により、一切の原子力船舶および核兵器が我が国帰属の陸域、水域、空域すべてにおいて禁じられ、またニュージーランドの水域における放射性廃棄物の廃棄も一切禁じられています。

1995年、フランスは核実験再開を発表し、世界各国から非難を受けました。ニュージーランドの活動家達は、32隻の船舶によるムルロア平和小型船団を組織し、広島原爆投下の日にその最初の1隻がオークランド港を出航しました。またニュージーランド国内では、数々の抗議デモが行われ、市民派遣団もフランス本国やタヒチを訪問しました。フランスはやがて核実験を切り上げ、1996年初頭に太平洋核実験場を恒久的に閉鎖しました。

二文化併存主義、マオリ民族主義、そして太平洋地域との団結などがますます強まる中、レインボー・ウオーリア号事件や1995年の抗議活動により、ニュージーランドは非核独立国としてのアイデンティティをより強固な物と

しました。反核政策に対する国民の支持はいまだ非常に強く、政府もこれまでであえて変えようとはしていません。しかしながら、ニュージーランドは、米国の目的達成を支援するかたちで中東地域における戦争に参加し続けているほか、ファイブ・アイズと呼ばれる電子諜報拠点ネットワークのメンバー国として、南太平洋地域における情報の収集および共有を行っています。



ニュージーランドの掲げる反核政策は、原子力エネルギーのいわゆる平和利用には適用されません。しかし、1987年に制定された法律は現在、広義に解釈されつつあり、原子力やウラン採掘など、様々な原子力技術の応用形態をも含んで、政治家や国民の間でもいるのですが、ニュージーランドは原子力発電所で発電される持続的で多大なエネルギーを必要としていません。ニュージーランドの将来は、太陽光、風力、地熱エネルギーなど、再生可能なエネルギー手段とより効率の良いエネルギー貯蔵機構にかかっているのです。

## 参考文献

"Peace, Power & Politics: How New Zealand became nuclear free" by Mairé Leadbeater, 2013  
"Mad on Radium: New Zealand in the atomic age" by Rebecca Priestley, 2012

## 南相馬からの便り

### 南相馬市小高区 同慶寺

### ネパール参拝旅行のご報告

田中 徳雲

去る二月十六日から二十二日までの一週間、ネパールへ行って参りました。旅の目的は、お釈迦様の御生誕の聖地ルンビニー参拝と御仏舍利様御拝受です。一緒に行く団員を募集したところ九名の方が参加してくださり、加えて寺院と住職との合計十一名で出発いたしました。

十一名の参加者中十名は避難中で、避難先が、福島市、会津若松市、埼玉県加須市、それに北海道ということもあり、集合は羽田空港にいたしました。出発当日はとても風の強い日で、南相馬といわきから出発した私を含む五名を乗せた電車は、途中の茨城県高萩駅で停車してしまいました。一時間以上車内で待ちましたが動き出す気配はなし。このままだと待ち合わせに間に合わないどころか、飛行機にも間に合わないかもしれないと判断、電車をあきらめタクシーで向かうことにしました。



ルンビニーまで導いてくださる日本山妙法寺ルンビニー道場の佐藤達馬御上人はじめ矢向庵さんやいつも応援に駆けつけてくださる群馬県高崎、救現堂の秋山太一さんが見送りに来てくださっていました。余裕なく出発したため、出発前の記念撮影も出来ませんでした。こうして私たちの旅は始まりました。

バンコク経由で飛行機に乗ること八時間半、羽田を出てネパールの首都カトマンズに着いたのは現地時間の昼過ぎでした。

首都カトマンズの様子は混沌としていました。今回参加されたSさんは、二十年前にも一度訪れており、その変わりように驚いていました。かつて空港で迎えてくれたヒマラヤ山脈の絶景は、慢性化する排気ガスで空全体が曇っており見えませんでした。道路に信号はありませんが、機能しておらず、実質信号の無い状態です。そこを沢山の車、人々が大勢行き交います。しかし、事故は極めて少ないそうで、理由を伺うと「運転しながら、全体をよく見て、あの人はこちらに行きたい、この車はあちらに向かう等という具合に、全体の流れに配慮しながら運転している」と話してくれました。

なるほどそうですね。私も今の小高の町を走りながら、ほとんど人の居ない町で「赤信号」で停車している時、その意味を考えています。事故を防ぐための注意を促すことができれば、信号はそのための道具にすぎず、絶対守らなければならないものでもなく、また、信号を守って

いれば絶対事故にあわないうことでもないので、シートベルトが義務化になった時と同じような感覚です。大切なのは事故を起こさないこと。いのちを守ることに。

お釈迦様生誕の地ルンビニーは、静かで素朴な所でした。早朝のお参りということもあり、特に優しい光りに包まれており、少しの時間、坐禅をしました。が、いつまでもしていたくなるような場所でした。さすが四大仏跡、聖地です。お釈迦様がお生まれになったといわれる場所にはマヤ堂（お母様の名前がマヤ夫人）が建っており、中にはレリーフがお奉りされています。またお釈迦様の滅後100年にアショカ王（仏教をたいへん守護された王）が立てた石柱が残っており、当時のブラフミー文字で「この村の税を軽くする」と書かれておりました。

そして、その北側には、世界中の仏教寺院があり、中心部に日本山妙法寺の御上人様たちが建立された大きな白い御仏舍利塔が建てられています。全員で塔を右回りに3周回り（最大の敬意の表し方とされている）、般若心経と南無妙法蓮華経をお唱えし、参拝させていただきました。

その後、ポカラにバスで移動し、御仏舍利塔を参拝し、美しいアンナプルナ山系からのご来光を拝ませてくださいました。道中感じたことは、ネパールの水問題で、都市部の生活はお金が稼げて水が不便で衛生面で問題があり、逆に田舎の生活はお金がなくても、水は豊に湧いており、自給自足的な生活が営まれ、かつての

日本のようだと言った参加者は話しておりました。

そして、二月二十日、午前中は飛行機でヒマラヤ山脈を遊覧し、世界の最高峰エベレストを望み、午後からはシヤカ・ブツダ・ビハール寺院で御仏舍利授与式が行われ、住持のギャンカジ・ラマ老師から、御仏舍利様を拝受いたしました。とても緊張しましたが、随行して下さった佐藤御上人と、ギャンカジ老師のたいへん素朴なお人柄に支えていただきました。三粒の御仏舍利様を拝受いたしました。

最終日、スモッグの為、飛行機はなかなか離陸できませんでしたが、なんとか無事に帰路につきました。一週間という限られた時間の中で、見所満載のたいへん充実した参拝旅行になりました。これもお世話してくださった佐藤御上人はじめ、ガイドをしてくださったシヤカ族の末裔スメダさん等、支えてくださったすべての皆様のお陰だと思えます。心から感謝しております。

### 旅行後記

さて、たいへんなものを授かってしまいました。現在本堂にお奉りしてありますが、檀信徒の皆様から、最近よく「御仏舍利とは本物ですか？」と聞かれます。私は本物でしょうと答えています。しかし真偽は実は重要なことではないのかも知れませんが、御仏舍利を広く奉り供養することの重要性を説く面と、そこに執着しすぎるとは要注意であると説く面の両方があります。

ギャンカジ長老は、「不適當に奉ればいつの間にか消えてしまう」と言われました。大切なのは東日本大震災の復興を祈念して御仏舍利様を送ろうとしてくださったネパールのみなさまのお心、それに対して私たちがどう向き合い、行動してゆくかだと思います。そして、私たちが授かるに恥じない仏教者としての行動ができるかが試されているのだと思います。それができれば、慈悲の光り輝き、大きなお導きをごくださるものとも思っています。私としてはできることをやるだけです。

日本にも既にいくつかの御仏舍利塔があります。有名なのは京都東寺の五重塔です。まずは、全国の御仏舍利塔を参拝しながら自分達に出来ることを考えてみたいと思っています。

### ネパール大地震 近況報告

去る四月二十五日、大地震の発生により、ネパールでは五十万以上の家屋が完全に倒壊し、一万七千人以上のけが人が出ました。そして八千七百人を越える方々の命が失われました。謹んで犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたします。また同時に、心から物心両面での復興をご祈念し、僅かですが義援金を送らせていただきました。

近況報告（日本山妙法寺ルンビニ道場 佐藤達馬御上人より）

### 南無妙法蓮華経

6月6日、カトマンズ郊外にある、シンドウパルチョウク郡の避難民キャンプを訪れまし



た。このキャンプはリステイ村、タトパニ村、ブルピン村、ダイクン村、バルビシエ村の五つのから編成されたキャンプで、総勢300名の方々がカトマンズ市郊外にある空地を借りて、その狭い鶏小屋の中で共同生活をしておりました。この五つの村は先の地震で甚大な被害を受け、更には先日の大雨により土砂崩れの二次災害を受け、とても村では生活出来ない、そして戻れない状況になり、着の身着のままカトマンズに避難して来た様です。

このキャンプでの生活状況を見るに、いくつかの支援団体が協力してトイレや水浴場を作ってくれたり、米を配給してくれたりしているようですが、地震のショックの喪失感と未来に希望を見出せない無力感により大人達は日がな一日何をするわけでも無くボケと過し、子供達は学校も無いのでただ遊び回るだけでした。この状況の中に、只々安易に食料品が運ばれてきては、人々は礼節を忘れ餓鬼心、懶怠心のみが増長するのみで、かえって再生能力の根を絶やしてしまうのではないかと心配されます。

そこで、このキャンプを取り仕切っているテンボラマさんと相談し、次なるステップとして、皆さんに送って頂きました義援金を、このキャンプで生活している子供達85人を近くの公立学校に編入させて、一切の学費、制服、学用品の費用として支援させて頂くことに致しました。子供達の変化、笑顔によって大人達に良い影響を与えるものと信じます。 合掌

## 東日本大震災から 4年の月日が経ちました

田中 慶子

みなさん、はじめまして。田中慶子と申します。私は震災前は福島県南相馬市小高区に住んでいました。母が1人、主人と私、子供達3人（当時長女6歳、長男4歳、次女2歳）と暮らし、家業の寺院を務めていました。

2013年3月11日2時15分、私は友人宅で、母と主人と次女は自宅で、長女は幼稚園、長男は友人宅で、地震に遭いました。私はテールの下で友人と抱き合いながらなんとか地震をやり過ごし、割れたお皿で歩けないような室内をやっと抜け出し、友人も私もそれぞれ子供のところへ走り出しました。車で走り出すと、道路が大きく陥没していたのを見て急いでバツクしながら、これは大変なことが起きたんだと怖くなりました。

自宅に戻り主人と母と次女の無事を確認してから幼稚園へ。幼稚園では先生方が子供達を親御さんの手へと渡していました。長女は何が起きたか分かっていないようで、きょとんとしていました。そこから長男を迎えにお友達の家へ向かいました。お友達家族も長男も無事でお友達と何事もなかったように遊んでいました。

寺院である自宅に戻ってからは数分おきの余震が続いていて家の中に居る事ができず、外の車の中にいました。ちょうど寒い季節だったので車の中でテレビを付けたりラジオを聴い

たりしてました。そのうち「津波がくるぞ」と連絡がはいり、家族で西の方に車で走り出しました。お寺はもともと高台にあるのですが、この大きな地震では津波がどこまでくるか予測できず、西に20分ぐらい走り出しました。

そこで1時間半ぐらいやり過ごし、車で自宅まで戻りました。主人が夕方からお通夜を控えていたので、葬儀場の様子を見に自転車で海側の方に行くと言い出かれました。すると青ざめた顔で戻ってきました。「駅が海になつて……」

これは大変な事が起きたんだと気が焦る中、まだまだ続く余震に車の中でラジオを聴いたりしてました。そして夕方近くになり、原発が危険な状態だという情報を主人が受け、今すぐ避難しようとの事。

家族も近所の方も「原発は大丈夫だろう」と信じられずにいましたが、じゃあ子供達を連れて西にある福島市まで一晩行こうという話になりました。お寺を母に預け、主人と私と子供達3人を連れて西へ出発しました。それから4年が過ぎた現在に至るまで、お寺には戻れていません。

避難生活は福井県で2年暮らした後、現在は実家のある福島県いわき市に暮らして2年が過ぎました。震災後4人目が生まれたことや、お寺にはもう住めない判断をし、いわき市に自宅を建てることになりました。やっとやっと、地に足がついたようで安心しました。

震災後から主人は私たちの住まいと南相馬のお寺とを、片道1時間半の距離を行ったり来たりの日々です。私は年に数回ですがお寺に通い、片付けや掃除を繰り返しています。避難して1年が過ぎ、2年が過ぎ。日々やっと生きてきたという感じですが。

ですがやっと生活を立て直し始めたと同時に、福島に戻ったからの暮らしは常に放射能を気にしての日々です。子供達が外で遊ぶこと、食べるもの、いろいろ気を使うのですが、そんな話しはみんな避けているので、ネットで繋がった方やいわき市内でも被曝を防ぐ活動をしている方と繋がったりすることで情報を得ています。

近所から家庭菜園で作った物を頂いても食べることができず、スーパーで買い物をしていてもなるべく西の方でできた野菜を探したり、でも海外産のものでは大量の農薬がかかっているし、と買いたい物ができない日もあったりです。海産物は特に気を使っています。近海のものも数年口にしていません。福島は海の幸の山がとても美味しく豊かな所でした。福井に避難している時、福島と同じような豊かさを感じ、無くしてしまった自然の有り難みを痛感しました。

そして、気にするのは放射能だけではありません。避難者⇨莫大な補償金を得ている、と思われ、いろいろな噂をたてられ、身を隠すように暮らしている方がたくさんいます。震災直後から避難者を受け入れてくださった市町村で

の生活が長期化してくると様々な問題も出てきます。震災後の福島県の人たちは、どんな立場であれ本当に疲れているんだと、そう感じました。

いろいろなことを経て4年が過ぎた今。私の中にいつもあるものは、今、ここ全てが大切。

日常を突然断ち切られるという経験はたくさんのもを失いましたが、同時に今まで得たこともないようなものを得られました。それに失ったと思っても、別な形で私に戻ってきます。今ここを大切に生きる。それが全てに繋がります。その大切さを実感できたことは幸せです。

みなさんひとりひとりが今を大切に、幸せでありますように……読んでいただいで、ありがとうございます。



続いての文章は

- ① 西原克成先生の講演会に出て、診察も受け、ほかのいろいろなやり方も経て元氣を取り戻した YSさんのレポート
- ② 伊勢に移られた元岡本の愛農人のオーナー吉田さんからの伊勢だよりその8
- ③ なつきじろうさんの「NO MORE 英霊」
- ④ 小野寺雅子さんの市川加代子料理講座の参加雑感
- ⑤ 松井清さんの「屋久杉」玉磨きのレポートです。

私が体調を崩してから、もう3年半になりました。最初の異変は、2012年2月にタクシーで病院に向かう途中、急に頻脈になり救急車を呼びました。これがパニック障害の始まりでした。その後も半年の間に8回ぐらい救急車を呼びました。車中で、自転車に乗っている時、朝食後、風呂上がり、いつ起こるかわからないのです。急に心臓がドキドキしてきて頻脈になり、不安でおちつかなくなります。

中には過呼吸になって手足がしびれ、もうだめだと思ったこともありましたが、でも病院に着くと、段々落ち着いてくるのです。いつもそんなパターンでした。思い返せば、消防の人や病院の先生に大変迷惑をかけたのです。でも当時は、恐怖感でたまらなかつたのです。治療としては、抗不安薬のデパスを服用することでした。

しかし、副作用で頭がふらつき、スッキリしないのです。このままでは、ダメだと思い、いろいろ調べました。そして試しました。首こり治療、歯のかみ合わせ、詰め物換える、整体、オルゴールを聞くなど。

また、書籍もたくさん買いました。その中に、西原克成

先生の本がありました。調べると、サラシャーンティで5月に講演会があることがわかり、聴きに行きました。その後、9月に診察に行き、先生のおっしゃる食生活に変えました。それは、



温かい物を飲食する、辛い物を食べないことです。他には口呼吸をやめ鼻呼吸にすること。

これらを実践しています。それとは別に、4月から神戸の栄養療法を指導している心療内科に行きました。そこでは、葉は出さず、3か月毎に採血して、自分に足りない栄養素をサプリメントで補います。考え方としては、パニックやうつは、血糖値が関係しているようなのです。症状の出る人は、血糖調節が少しおかしくなってしまう可能性があるあります。ゆえに血糖値が乱高下しないように、野菜を食べ、次に魚や肉、最後に炭水化物の順番に食べ、血糖値の急上昇を抑えるのです。また、食間にも軽くタンパク質のナッツ類やチーズを食べます。ただし、食べ過ぎは注意しています。

こういう生活を続けていると、だんだんパニックが落ち着いてきました。私は、体調を良くしたい思いで必死に調べ自分で選んで来ました。もし、あのまま薬を飲み続けていけば、今の私は、ないでしょう。また、家族の支えなしでは到底病にかてなかつたのでは思います。本当に感謝です。サラ・シャントイで講演会をやってくださいましたことにも感謝です。人は出会うべきものがあるときには、出会えるようになっていくのかもしれない。私は病気になる、いろいろな事を試したり、いろんな先生に出会ったりしました。これだけが良かったということはなく、全てが必要だったと思います。今もまだまだ完璧ではありませんが、日々良くなっていくと信じています。

今回、このような機会を頂き本当に有難うございます。今も病気で苦しんでいる方々、あきらめず、あせらず共に頑張りましょう。

#### 参考図書

「パニック障害、うつ病は腸のバイ菌が原因」

西原 克成 たちばな出版

「うつは食べ物の原因だった」

溝口 徹 青春出版社

「糖質革命」

櫻本 薫 宝島出版社

「心療内科に行く前に食事を変えなさい」

姫野 友美 青春出版社

「歯は命とつながる臓器」

村津 和正 三五館

「オルゴールは脳に効く」

佐伯 吉章 実業之日本社

「慢性疲労は首で治せる」

松井 孝嘉 角川新書

「超整体健康法」

二宮 進 P H P 研究所

## 伊勢からの便り

吉田 博明



先月中旬、近鉄宇治山田駅前の伊勢市観光文化会館大ホールで、劇団伊勢第66回公演「サクラ

とハナミズキ」(尾崎行雄の奇跡と軌跡)を観ました。劇団伊勢はこれまで倭姫(2009年の伝言)、山田奉行 大岡忠相(伊勢の夜明けと日本の夜明け)など、地元ゆかりの深い人物や歴史を題材とした公演を上演しています。

今年は政治家尾崎行雄(ペンネーム罌堂がく

どう)が取り上げられました。尾崎行雄(1858~1954)は神奈川県相模原市津久井で生まれ、14歳で、父行正の転任に伴い、伊勢市に移住。16歳の時、弟の行隆と共に、福沢諭吉の慶應義塾に入学。

21歳の時、福沢の推薦で新潟新聞社主筆となった後、23歳で後輩の矢野文雄に招かれ、明治政府の役人となりました。31歳の時、第一回衆議院議員選挙で三重県伊勢・度会・鳥羽・志摩地区から立候補、初当選したのを皮切りに、その後、25回連続当選しました。

実に63年間衆議院議員として活躍し、95歳でこの世を去りました。尾崎行雄は明治・大正・昭和をとおして、若いころは国会を作るために奔走し、国会ができる、それを育てるために自ら議員として心血を注ぎ、晩年は基本的人権の獲得・真の民主主義・世界平和の実現に尽力し、「憲政の神様」と讃えられた伊勢の偉人です。

演題となった「サクラとハナミズキ」は、尾崎行雄が東京市長を務めていた1912年、アメリカ第27代大統領ウィリアム・タフトに、両国の親善の証として、3000本の桜を寄贈し、ワシントンDCのポトマック河畔に植樹されたこと、その3年後の1915年、今度はアメリカから返礼として、日本に初めて、40本のハナミズキが贈られて、今年で100年を迎えたというエピソードに由来しています。

当時、ハナミズキを推薦した植物学者デイヴ

イッド・フェアチャイルド博士は「アメリカの子供たちが日本から来た桜を愛する時、日本の子供たちもアメリカから来たハナミズキを見て喜んでほしい。」との願いを込めたと語っていたそうです。

昨年4月、再びアメリカから三千本のハナミズキが寄贈され、各地に植樹されました。伊勢市には32本が配布され、伊勢神宮の内宮と外宮に植樹されました。内宮ではキャロライン・ケネデー駐日大使を迎えて、植樹されました。その他、尾崎弴堂記念館（伊勢市川端町）、伊勢市観光文化会館前の尾崎弴堂の胸像脇や市内の小中学校に植えられました。

ポトマック河畔で開催されているさくら祭りは今年で55回目になり、100万人近くの人々にぎわうなど、「サクラとハナミズキ」が取り持つ縁で、両国の絆がますます深まってきています。

公演は、劇団伊勢演出のファンタジーにあふれた創作ミュージカルになっていましたが、尾崎行雄の人柄や業績などは十分伝わってきました。当日、昼夜2公演の昼の部を観ましたが、千人収容の会場は満席でした。観客は中高年の男女が多数を占めていて、物語の核心部分になると大きな拍手とスタンディングオベーションで盛り上がり、地元の歴史や偉人に対する郷土愛の深さを感じました。

厚生労働省が毎年発表している簡易生命表

によると、2014年度の日本人の平均寿命は、男性80・50歳（世界第3位）、女性86・83（世界第1位）でした。男性は2013年に初めて80歳を突破しました。女性は1984年に80歳を突破して以来、一時東日本大震災の影響で世界第2位に後退したものの、世界第1位を更新し続けてきました。

厚生労働省は、医療の進歩を反映して、生活習慣病、脳血管疾患などの死亡率が低下してきていることや健康への関心の高まりから、今後さらに平均寿命は伸びると予想しています。ちなみに、現在65歳の男性の平均余命は19・3歳で2035年の平均寿命は84歳、女性の平均余命は28歳で、93歳になると予想されています。

また、厚生労働省では、平均寿命とは別に、健康上の問題で、日常生活が制限されない期間を示す健康寿命も算出していて、2013年は、男性71・19歳、女性74・24歳でした。今後、医療・介護への負担が集中している高齢者の平均寿命と健康寿命との差をいかに縮めてゆかかという「人生ラスト十年問題」が、年々増加している公的費用に歯止めをかけるための国民的課題となっていると指摘しています。

最近発表された調査では、現在65歳以上の高齢者の体力は、瞬発力は低下してきているものの、運動能力は5〜6歳若返ってきていること、総合的判断力などの知性、知恵などの結晶能力は、むしろ向上してきていると報告されて

います。また、アメリカでの研究成果では、従来経済が成長したから寿命が延びたと考えられてきたのに反し、これからは寿命が延びたことで、経済が成長する可能性があることを示唆しています。

人生80年代を迎えて、学ぶ期間が6歳から十数年、働く期間が40年、老後が30年と、ライフワークバランスが従来と比べて大きく変化してきているため、社会保障制度及び、個人の生き方も軌道修正する意識改革が求められているのではないのでしょうか。

2013年12月、ユネスコは日本人の伝統的な食文化（和食）を5件目の無形文化遺産として登録しました。最近、欧米では、小麦や牧畜文化による脂肪・糖分などカロリーを重視した食事が肥満・生活習慣病の温床となってきたことから、コメを主食に野菜・海藻など植物性食品を中心に、魚介類、肉類などの動物性食品を適量摂取する日本の伝統食が、人間の生理機能に合ったベストメニューとして評価されてきたことも背景の一つといえるでしょう。特に、アメリカでは、日本の伝統食が健康と長期療養に関する国のガイドライン（マクガバンレポート）のモデルとなってきました。

日本の伝統食の源は、伊勢神宮外宮で1500年前から続けられている食の儀式「日毎朝夕大御饗祭」ではないでしょうか。毎朝夕欠かさず、神様に食事（神饗）をお供えする儀式のことです。献立は旬ごとに収穫され

る神宮神田（米）、神宮御園（野菜や果物）、御塩田（塩）などからの自給自足の食材以外、周辺のご料地から調達された沿海魚、海藻、四足以外の動物性食材が使われています。

また、760年前、精進料理を提唱した曹洞宗（禅）の開祖・道元は食材の扱い方、調理方法や食事の作法など食の神髄をこと細かく書き残しました。特に、ヨーロッパでは翻訳されて、料理界の教科書として取り上げられました。

精進料理は、一般に野菜料理と理解されていますが、家庭料理では自然の恵みに感謝をこめて、「いのち」に代えさせていただきますとの心得があれば、魚介類、肉類を摂取しても広義には精進料理と言えます。欧米化への拍車がかかってきた食生活を見直すことは、自身でできる健康維持の基本ではないでしょうか。

2014年、内閣府が発表した少子化対策白書によると、20歳から40歳未満の未婚の男女を対象とした恋愛についてのアンケート調査で、調査対象者のうちの40%（男女ほぼ同数）が恋人をほしくないと答えたとの結果が公表されました。2010年時点での調査では32%だったので、晩婚化傾向が強まってきているうえ、恋人をほしいと思わないし、結婚もしたくない人たちの増加傾向がより鮮明になってきました。

また、東京都が3年ごとに実施している中学生を対象とした性的関心があるかないか

の調査でも、1987年では男性86%、女性36%があると答えていたのに、2014年ではあると答えた人は、男性25.7%、女性10.9%と、特に2000年代に入ってから急速に低下してきています。

この傾向は、男女の恋愛にあまり積極的でない「草食系男子」という流行語が登場してから間もないのに、今では、女性にあまり近づきたくない「絶食系男子」という言葉に変わってきたことにも現れています。

しかも、この傾向は、日本でだけ見られ、ハグしたり手をつなぐことは、本能であり楽しいことで、性的関心があるのは当たり前との意識が定着している欧米やアジアなどからはとても奇異な現象と受け止められているそうです。

10年前、消費社会研究家の三浦展氏は「下流社会」を出版し、日本人の意識が中流社会から下流社会へと、格差社会が拡大していることを指摘しました。

2015年春、3万人を対象に再調査をした結果、人口の49%の人々が日本人の総資産額のたった4%しか所有していないことから、格差社会が更に拡大してきていることを裏付けました。これらのデータから、少子化の背景には、結婚したくても経済的理由で二の足を踏んでいる人たちの心理が反映されているとの見方が、世間の常識だと思われてきました。

ところが、この傾向が東京などの都市部で顕

著に目につくようになったのは、「存在の基本は自然」とのアニミズムをベースに長い間自然と共生してきた日本人が急速に自然を遠ざけ、極端に人工化された生活環境の中で、野生本能がそがれてきていることも一つの要因ではないかとの見方が人類学者などの専門家によって、指摘されはじめました。

子供は、根本的には自然そのもので、何をするか、予測がむずかしく、面倒くさい存在なはず。しかし、次第に自然との付き合い方が下手になってきた現代人は、何でもコントロールしないと満足せず、子供は持たないほうがだとの意識を助長させてきているのかもしれない。

世界38か国で150万部を突破したベストセラー「21世紀の資本」の著者、フランスの経済学者トマ・ピケティ氏が今年1月に来日しました。4日間の滞在中、講演やTV出演にと超多忙な日程をこなし、旋風を巻き起こしました。インタビュウの中で、日本では格差問題よりむしろ、少子化傾向（人口減少）を加速化させていることにもっと関心を寄せるべきではないかという彼の指摘が重く心に響きました。

伊勢で日々、自然を身近に感じながら、日常生活を送っていると、都会の老若男女の地方への移住願望の背景には、自然回帰の動きがあるのではないかと感じています

**NO MORE 羨望**

きのこといのは実に不思議な生き物で、公園や野外を歩いている時に道脇にぶつきらぼうにのっと出ていたりすると「えっ！ 何で？」とまず驚かされます。



「山路来てなにやらゆかしすみれ草」の芭蕉や「妹が垣ね三味線草の花咲ぬ」と蕪村が野草に出会った時に抱いた感慨とは根本的に異なる感覚です。

それは、きのこがとりわけ私たちの実生活に馴染みが薄いことから来るものでしょう。そんなきのこと山歩きの途中に突然遭遇し、「こんなに不思議な生き物が現実にはこの世の中に居るんだ」と思ったことがきっかけで親しみはじめ、もう30年の歳月が流れました。

そして馬齢を重ねる毎に自分の無意味さを思い知らされて、益々きのこに惹かれ、段々きのこと区別がつかなくなってきました。親しい友人たちが僕のことをきのこさんと呼ぶのでなおさらです。

そんな余りパツとしない僕が何となく関わり続けてきたことがあります。

それは親父が復員後始めた小さな会社を切り盛りしながら執念を燃やして昭和50年に建立した慰霊碑の意味を伝える仕事です。その慰霊碑というのがまた風変わりなもので

「大戦殉難北方異民族」と銘打たれたものなのです。

そして、それは靖国神社の末社である神戸護国神社の一隅に建てられています。これも英霊の祭祀を目的とする全国の護国神社には異質のものです。

僕はこの碑前に立つとき、皇国思想の継承者であるべき先代宮司の心の広さを感じずにはいられません。なぜなら靖国の思想は、幕末の長州藩の尊王攘夷派の死者の鎮魂をもつぱらとする招魂社に源があり、天皇を頂点とする近代日本の国事殉死者のみを峻別して祀ることを目的としてきたからです。

父は戦後60年を迎える目前に亡くなり、慰霊祭を支える人達の多くもまたたく間に戦後生まれの者たちの時代に入り、ふと気がつけば戦後70年、慰霊碑建立40年目の大祭を迎えることになっていたので。この日、戦争を知らない人達が50名余りも集まったことには僕自身驚いています。



太平洋戦争の3年8ヶ月余りで日本軍の戦死者は240万人を上まわり、空襲等による一般国民の死者は、原爆の犠牲者を含めて75万人以上との数字は、日清戦争の1万3千余、日露戦争の8万8千余、満州事変の1万7千余、日中戦争の18万7千余と比較して、太平洋戦争の戦没者が如何に多いかということとは理解できても、それは単に統計的な数字でしかなく、戦争の悲惨さをこれっぽっちも伝えるもので

はないのです。

ましてや、碑(いしづみ)が戦争の悲惨さを身を以って体験した人たちの一言以上の力を持ちえないのは当然です。悲しいかな、私たちの想像力は飽くまで感情移入できる個人に属するものに限られているからです。

去る4月29日の慰霊祭の当日、戦争体験や被爆体験を語る語り部たちの永遠の非在を思い知らされ、私は戦後80年をはやありえないうという思いで一杯になりました。そんな中で、「わたしたちにとって他者でしかない異民族を慰霊するということは、いかなる意味をもっているのだろうか？」と心の中で繰り返していました。この問いに対する確固たる答えは私の中にまだありません。

しかし、私はきのこたちとの対話を続けてきた人間として、神戸の護国神社にひっそりと立つこの風変わりな石くれに、逆に英霊という没個性的な祭神集団から丹念に個人というものを奪回する作業を通じて、

平和の意味を考えて行こうと決意しています。そのひとつの試みが、以下に紹介する光るきのこたちが引き寄せた普通なら決して結びつくことのない私たちの物語です。



『光るきのこたちの賦』A5判37ページ  
定価600円(税込) なつきじょう著

申込み TEL&FAX 079-562-3651 扇塚で

振込先 三井住友銀行三田(さんだ)支店  
(通)3440873

ゆーちゅ銀行 14350 6680371  
いずれも口座名義 扇千恵(おうぎ ちえ)

## ☆教室めぐり☆

### 市川加代子料理講座

小野寺 雅子

今年の「楽しく生きる会」

新春の集いに参加した際  
興味を惹かれるチラシを  
手にしました。それは、



お料理と、ジャンル分け出来ない面白そうな講座を月替わりで学ぶものでした。そして新春の集いにいらしていた市川先生ほか諸先生方からの簡単な挨拶をお聞きし、その場ですぐに全講座の申し込みを決めました。

そう、その講座の先生は市川加代子とおっしゃいます。市川先生についても、もっと言えばサラシャンティについても何の前知識もないのに大胆なことをしたものだと思ながら感じますが、私の中で「この先生の講座は受けた方がいい」という思いが強くなりました。そして現在まで計5回の講座を受講した感想は、やはり私の心の声に間違いはなかった、ということです。

お料理教室では、まず他のどの教室でも教えて頂けないだろうと思うことを惜しげもなく教えてくださいます。何より驚いたのは食材をいかに無駄なく使いきるか、そして食材たちが

持つ力を私たち人間が余すところなく受け取るのにはどうしたらいいかということでした。

私がこれまでに通った料理教室やメディアで知る有名店の方たちならざっくり切って捨ててしまうようなところでも、本当にその命をいただくのだから無駄なところは一切ない、と丁寧に使いきられるのです。その姿勢に影響された家でも、以前なら捨てていたようなところで使いきり、なるべく食材の命をいただくようになりました。また調味料の使い方や、火加減、どれも新しい驚きでした。お陰様で今までは見向きもしなかった調味料へも挑戦することができています。

食材たちの力をいただき、本来人が持っているはずの自然治癒力を最大限発揮できれば、これはどうなんだろう、と思われる薬やサプリメントともさようなうができます。人も大自然の中で生かされている身です。それを思い出させて下さった市川先生に感謝しながら、そして先生の際限のない深い知識に触れることを楽しみに毎月通っています。

余談ではありますが、先生はいつも素敵な、そして時にはあまりお目にかかれないような素材の着物もお召しになつてらっしゃいます。着物が大好きな私としては毎回の先生のお着物を見せて頂けることが、大きな声では言えませんが、一番の収穫かもしれません…。先生、あともう少し楽しみに通いますのでよろしくお願いします。

屋久杉 玉磨き

松井 清

ある日、元町商店街の1本北の筋を歩いていると、小さなギャラリーで、いろんな木片を綺麗に磨きあげて展示されていました。吸い込まれる様に、中に入って行きますと、淡路島での暫定枝や薪、海岸に流れ着いた流木が、磨かれて、美しく並べてありました。たくさんの中から一つ手に取り、気に入ったので購入しました。

その後、サラ・シャンティさんで、「屋久杉玉磨き」というのがあるとお知らせが届きました。日時が6月23日(火)で、ちょうど私の仕事休みの日でしたので、これはチャンス、今度は自分で玉磨きが出来ると、参加させて頂く事にしました。

当日、サラ・シャンティさんに行くと、参加されている方々はほとんど女性で、男性は私ともう一方だけでした。仕事柄、こういうシチュエーションに慣れているので、平気でした。

5、6人ずつの班に分かれ、まずは「なーや」さんこと佐藤 直哉さんが用意して頂いたたくさんの屋久杉の木片から、自分が磨きたい木片を選びます。

迷いどころですが、ココは直感で、手にしっくりする子を選びました。なーやさんから、まず目の粗い紙ヤスリを配られました。荒削りからスタートです。磨きだすと、ものすごく屋久杉の香りがたちます。

ある程度磨きあげるとなーやさんにチェックして頂き、次の段階の少し目の細かい紙ヤスリ渡していただけです。なかなかOKがでなく、大変です。

それを最終的に、8段階繰り返します。なーやさんは、それぞれの段階を、次元と言ってられました。



途中焦って力入れて磨いていたなら、なんと爪の跡がついてしまい、なーやさんのチェックで、一つの荒さの紙ヤスリに戻って磨き直す事もありました。

磨きながら、大本教開祖、出口王仁三郎氏の玄孫にあたる、出口春日さんのお話をお聞きしたり、なーやさんのクリスタルボールの音と、春日さんの祝詞のコラボのCDを聞きながら、ゆったりした時間が流れます。

途中、グループ内で、お互いの木片を回して磨き合いました。人のを磨くのも、又いい刺激です。グループ内の方々は結構遠方の方が多く、私が一番近所で、大阪や徳島から来られているとの事でした。ちなみに屋久杉と言われるのは、樹齢800年以上で、それ以下は、小杉と言われるそうです。

なーやさんは、屋久島の川辺や海岸で、その流木を拾われるそうですが、どうやって、屋久

杉か小杉か見分けられるのかをお聞きしたところ、香りでわかるそうです。小杉は酸っぱいような香りがするそうです。

最終的な磨きに入ると、その屋久杉の、最初は見えなかった個性が出て来ます。ワームホールのある子、樹液が固まっていいアクセントになっている子、その木片だけで200年くらいの年輪が見て取れる子…。

磨き終わると、ネットケルスにされる方は、なーやさんに細いドリルで穴をあけて頂きます。この時摩擦熱で、煙が上がったり、樹液がほとぼしり、すごい香りがたちました。この樹液の多さが、屋久杉を千年も持たす効果があるそうです。仕上げに椿油を塗ります。いい艶が出ました。

結局仕上げまでに、5時間近くかかりましたが、そんなに長く感じませんでした。

なーやさんに「お持ちの屋久杉玉は、屋久島への片道切符です。」と言われました。



確かに、いつか訪れて、屋久杉の流木を探してみたいなど、思いました。機会があれば、また違う屋久杉玉を磨きたいとも思いました。

### 編集後記

毎月、いろいろな講座があり、それぞれの世界で実践のともなった理論を述べる先生方に出会い、世の中は捨てたものではないと思うことが多いです。

実践といえ、311以降日本各地で行われている福島の子どものための保養キャンプの一つに明石の小野洋さんたち主宰の「たこ焼きキャンプ」というのがあります。

今年5回目のこのキャンプが8月3日に毎日放送ラジオで紹介されました。今もって保養が必要とされる被災地の現状のこと、公的支援の必要性について、とてもよく説明している番組です。約16分の番組、ポッドキャストで聴くことができます。

MBSラジオ ネットワーク1・17  
福島の子どもたちを招く保養キャンプ2015  
[http://www.mbs179.com/117\\_p/](http://www.mbs179.com/117_p/)

除染された土が4年も経つのに、自宅の庭先や子どもたちの通学路にビニールシートを被せただけで放置されているそうです。

神戸の私たちは阪神大震災を経験しているので地震がどういふものが少しはわかるはず。でも、放射能のことは未知数です。微生物の力などを利用して、放射能を抑える技術もいろいろあると聞いています。こういう良き技術が陽のあたるところに出てきて、福島の子どもたちが太陽の下で思いきり遊べる日が一日も早くきますように！

清水 和子